

ごあいさつ

1974（昭和 49）年、国営公園の管理運営を担うとともに、都市公園の管理運営に関する総合的な調査研究・技術開発と、その成果に基づく新技術の普及啓発を行う機関として、財団法人 公園緑地管理財団が設立されました。2012（平成 24）年に現在の一般財団法人 公園財団に改組し、今年、50 周年を迎えました。50 年間に国営公園を利用されたお客様は延べ 7 億人を超えています。公園財団が今日を迎えられたのは、ひとえにこれらお客様のおかげであるとともに、国、地方公共団体、民間各界の皆様のご支援、ご愛顧によるものです。心より感謝を申し上げます。公園財団は公園管理のトップランナーとして、新しい技術・ノウハウを開発し、より良い公園を皆様に提供するという使命に取り組んできました。これからも、未来の都市公園の可能性に中断なく挑戦してまいります。『公園財団 Parks Japan F.』をよろしくお願いいたします。

理事長 舟引敏明

公園財団の挑戦

フロンティア組織として 新しい公園マネジメントのあり方を追求する 公園財団。

さまざまな取り組みの中から、3つの“挑戦”をピックアップしてご紹介。

01 唯一無二の景色 花の風景づくり 事業推進部長 安達明彦

国営公園で大規模な花の修景が始まったきっかけは、1986（昭和61）年、国営昭和記念公園の国事務所と管理センター合同での利用促進に向けたアイデアコンペであった。その際、管理センターの植物管理担当職員が「広大な国営公園ならではの“スケールメリット”を生かした花畑を作りたい」と提案したプランが採用され、後の大規模花修景へとつながったのである。

その後、同公園での世界初の黄色いコスモスによる花修景をはじめ、おそらく

当時の国内では他に例のない丘状の地形を活用したコスモス大規模花修景、さらには「死ぬまでに行きたい世界の絶景」で紹介されることになる国営常陸海浜公園のみはらしの丘でのネモフィラ、コキアの導入と、唯一無二の大規模花修景誕生へと続く。

公園にいかにも多くの方に来ていただき楽しんでもらうか、それを着実に成し遂げられたのは、当時のスタッフの発想力と実現に向けた行動力、トライ&エラーによる技術的ノウハウの蓄積、その結果

生まれた魅力を発信し続ける力があってこそである。公園財団が長きにわたり挑戦し続けてきた花の風景づくりを通じて、イベント展開や地域連携の深まり、観光振興への貢献など、花を中心としたマネジメントに広がり生まれたことも、当財団にとって大きな財産である。次の50年に向けて、公園財団の挑戦は続く。



1987（昭和62）年秋のコスモス大規模花修景（昭和／みんなの原っぱ）



造成中のみはらしの丘（常陸）



来園者で賑わうみはらしの丘（常陸）

02 “公園”と“まち”と“日本最大級の音楽フェス”の物語 事業推進部 公民連携担当部長 穂積計人

黎明期の国営公園は、ストック効果を最大限発揮させるため利用機会の創出に注力した。

取り組みの1つとして、1978（昭和53）年、国営公園で初となる大規模コンサート「春のフォークコンサート」が国営武蔵丘陵森林公園で開催。その後、他の国営公園でも高い集客力を有する大規模コンサートが開催され、公園で音楽を楽しむ文化が定着していく。

2000（平成12）年には、国営常陸海浜公園で「ROCK IN JAPAN FES.」が初開催された。当初は1ステージ、2日間で6万人程だったが、2019（令和元）年には7ステージ、5日間で33.7万人を動員するまでに成長。その中で、当財団と地元有

志が協力し、来場者に茨城ならではの人情と飲食を提供する「ひたちなか市場みなと屋」は、日本最大級の当フェスに欠かせない空間となった。また、当フェスの誘致・開催によって、地元ひたちなか市に音楽のまちづくりの機運を高め、全国高校生アマチュアバンド選手権「TEENS ROCK IN HITACHINAKA」を誕生させた。

国営公園は、コンサートや音楽フェスの会場として場所を提供するだけでなく、公園と音楽、参加者、そして街が一体となった、しあわせの空間を創り上げるに至ったのである。先人の残してきた功績、そして半世紀を経てつながる公園緑地への思いを、私たち公園財団はしっかりと次につなげ、都市公園の未来に挑戦していく。



ROCK IN JAPAN FES.（常陸）



ひたちなか市場みなと屋（常陸）

03 公園財団が挑戦するプライベート・ファイナンス・イニシアティブ 常務理事 町田誠

国営公園、そして公園財団が誕生した1974（昭和49）年以降の50年間に、国営公園の管理に係る制度は大きく変化してきた。市場化テスト以降、園内のレストランやキャンプ場といった有料施設は運営維持管理業務への一体化が図られ、これらの業務や調整を担う当財団のマネジメント力が大いに発揮されているところである。

そして、「記念の森レストハウス」（国営常陸海浜公園）のリノベーションを手始めに、「オカカフェ」（国営昭和記念公園）の設置、国営公園初のPark-PFI事業である国営海の中道海浜公園の「光と風の広場」の運営を手掛けるなど、純粋な民間企業のような事業構造を持たない公園財団がPFIの精神に基づくような事

業にすでに果敢に挑戦してきている。公園財団の挑戦は、自分たちのDNAをどんどん進化させること、すなわち時代の変化に応じて高度化・複雑化するニーズに的確かつしなやかに対応していくということであると考える。

今後、公園をより良く、より魅力的にするため、指定管理業務とPark-PFIとのパッケージ化やデザインビルド性の高いPark-PFIが増えていくことが想定される。公園は、社会的に大きな役割を果たせる可能性を持った社会資本である。この役割を存分に発揮できるよう、公園財団はこれからも皆さんとともに取り組んでいく。



エコキャンプみちのく（みちのく）



オカカフェ（昭和）

公園財団のあゆみ

1974年の設立以来、公園と、関わる全ての人々とともに歩みつづけてきた

公園財団の50年を、写真とともに振り返ります。

1974年（昭和49年）

- 5月 財団法人公園緑地管理財団設立（現 東京都港区虎ノ門/本部に常務理事2名、参事1名、職員2名でスタート）
- 7月 国営武蔵丘陵森林公園開園①
国営飛鳥歴史公園開園

1976年（昭和51年）

- 1月 国営公園での大規模スポーツイベントの先駆けとなる「**先走マラソン大会**」を開催（武蔵）②

1977年（昭和52年）

- 3月 淀川河川公園開園③

1978年（昭和53年）

- 5月 国営公園での野外コンサートの先駆けとなる「**夏のフォークコンサート**」を初開催（武蔵）

1979年（昭和54年）

- 4月 雁の巣の管理業務（横浜市）の委託開始（H18指定管理業務に移行）

1981年（昭和56年）

- 10月 国営海の中道海浜公園開園

1983年（昭和58年）

- 7月 大規模レジャーブルの運営を開始（海の中道）
国営滝野すずらん丘陵公園開園④
- 8月 1万人を超える野外コンサートを初開催（海の中道）⑤
- 10月 国営昭和記念公園開園

1985年（昭和60年）

- 3月 公園管理ガイドブックを発刊（H17、H28に改訂）
- 12月 冬季スケート事業の運営を開始（H10終了）（昭和）⑥

1987年（昭和62年）

- 4月 国営公園での夜間開園の先駆けとなる**夜桜ライトアップ**を初開催（昭和）
- 9月 国営公園での大規模花修景の先駆けとなるコスモスによる**花修景**をみんなの原っぱで開始（昭和）
- 10月 国営木曾三川公園開園⑦

1988年（昭和63年）

- 10月 玉川大学と連携して世界初の黄色いコスモス「**イエローガーデン**」による**花修景**を初実施（昭和）⑧

1989年（平成元年）

- 7月（財）日本花の会と共同で国隙花と緑の博覧会政府苑の管理運営業務実施に向けて**政府苑管理運営協議会**を設置
- 8月 国営みちのく社の湖畔公園開園⑨
- 10月 国営公園での先駆けとなる**BBO事業**を開始（昭和）

1990年（平成2年）

- 7月 IFPPAジャパン設立

1991年（平成3年）

- 10月 国営常陸海浜公園開園⑩

1992年（平成4年）

- 9月 日本庭園の整備工事に伴い築かれた北の森で**コスモスによる花修景**を実施（昭和）⑪

1993年（平成5年）

- 4月 オートキャンプ研究会発足（H14解散）

1995年（平成7年）

- 2月 第1回「技術研究発表会」開催（R6に第30回目を迎える）
- 4月 本格的なボランティア養成事業「**飛鳥里山クラブ**」発足（飛鳥）⑫
- 4月 ツインアーチ138の管理業務（一宮市）の受託開始（H18指定管理業務に移行）
国営備北丘陵公園開園
- 12月 国営公園での先駆けとなるイルミネーションイベントを初開催（水郷、東北）⑬

1996年（平成8年）

- 6月 第1回「夢プラン」の募集開始

1998年（平成10年）

- 4月 国営讃岐まんのう公園開園
オートキャンプ場を初めて運営（まんのう）
- 7月 国営越後丘陵公園開園

2000年（平成12年）

- 3月 第1回「緑・花文化の知識認定試験」実施（第11回で終了）
- 8月 「**ROCK IN JAPAN FESTIVAL**」を誘致して初開催（常陸）⑭

2001年（平成13年）

- 4月 国営吉野ヶ里歴史公園開園⑮

2002年（平成14年）

- 3月 国営明石海峡公園開園
- 4月 みはらしの丘で**ネモフィラによる花修景**を開始（常陸）⑯

2004年（平成16年）

- 3月 キューケンホフ公園元園長コスカー氏監修の新たなデザインによる**チューリップ修景**を開始（昭和、越後、明石）⑰
- 7月 国営アルプスあづみの公園開園

2005年（平成17年）

- 2月 公園緑地管理財団本部の移転（東京都港区麻布台）
- 4月 防災事故の教訓「**安全の日**」を制定
- 6月 プロジェクト・ワイルドが環境教育推進法における人材認定事業に登録

2006年（平成18年）

- 4月 公園管理運営研究所の設置⑩
- 研究・技術開発委員会等5つの委員会の設置、39名の研究顧問を委嘱
公園管理運営士制度の創設「**ARABAKI ROCK FEST.**」を誘致して初開催（みはらしの丘）⑲
- 10月 第22回都市公園コンクールにて、（財）都市緑化機構等と共同で**国土交通大臣賞（造景）（大規模）部門：昭和（みどりの文化ゾーン）**を受賞⑳

2007年（平成19年）

- 3月 文部科学省より「学術研究機関の指定」を受ける
- 9月 初営業化でのレストランの営業開始（水郷/ままずかフェ）

2008年（平成20年）

- 6月 公園管理運営士会の発足（当財団が事務局）㉑

2010年（平成22年）

- 4月 浜名湖ガーデンパークの指定管理業務（静岡県）を開始
鳥川溪谷緑地の指定管理業務（長野県）を開始
- 6月 常陸、明石、あづみの業務を撤退（公野非特定）
- 7月 公園緑地管理財団本部の移転（東京都文京区関口）

2011年（平成23年）

- 3月 公園緑地管理財団と数島保存財団との事業連携・協力に関する協定の締結
- 4月 極楽寺他の指定管理業務（一宮市）を開始
- 10月 第27回都市公園コンクールにおいて、こもれびの丘ボランティアと共同で**国土交通省大賞（管理運営部門：昭和）**を受賞㉒

2012年（平成24年）

- 4月 一般財団法人公園財団に移行（名称変更、組織体制の改編）
経営理念の策定、パークアッププラン第1期中期計画の策定
武蔵、昭和の業務を撤退（公野非特定）
- 5月 第1回「国際香りのばら新品種コンクール」金賞受賞品種「**フレグランス・ビル**」の香りを再現した香水等のオリジナル商品の販売開始（越後）㉓

2013年（平成25年）

- 3月 関東4国営公園の事業撤退により、H21年度に124億円あった年間事業収入がH24年度に54億円（△70億円）まで減少
- 4月 公園財団ブランド宣言、ブランド推進室設置、外部監査制度・自己点検評価委員会の創設
常陸、あづみの業務を再獲得、備北の業務から撤退（非公野）
新宿中央の指定管理業務（新宿区）を開始
北鹿浜他の包括的民間業務委託（足立区）の業務開始
- 10月 快適生活研究家田中ケン氏の協力を得て「**Outdoor Park**」を初開催（あづみの）㉔
- 12月 「フード・アクション・ニッポン・アワード2013」で、吉見の「**つぶつぶいちごのベジタブルスムージー**」が審査委員特別賞を受賞㉕

2014年（平成26年）

- 2・3月 古墳でのプロジェクトマッピングを初実施（南葛/高松南古墳）
- 7月 「**新潟三大サマーイルミネーション**」に認定（越後）㉖

2015年（平成27年）

- 2月 第9回「いはらきイメージアップ大賞」において、**大賞（常陸ネモフィラ・コキアの絶景）**を受賞㉗
- 4月 武蔵、昭和の業務を再獲得
- 6月 IFPPA ジャパンをWorld Urban Parksジャパンに名称変更
- 10月 第31回都市公園コンクールにおいて、**国土交通大臣賞（管理運営部門：新宿中央）**を受賞㉘
- 12月 日本フラワービジネス大賞2015において、**育種・生産部門の大賞（越後「国際香りのばら新品種コンクール」運営委員会）**を受賞

2016年（平成28年）

- 4月 本部公園管理運営研究所開発研究部に環境教育推進室を設置
- 10月 第32回都市公園等コンクールにおいて、**国土交通大臣賞（管理運営部門：常陸）**を受賞㉙

2018年（平成30年）

- 3月 国営平城宮跡歴史公園開園㉚
- 4月 「パークアッププラン第2期中期計画」の策定
- 6月 厚生労働大臣より「女性活躍推進法に基づくえるばし（2段階目）」に認定

2019年（令和元年）

- 6月 海の森の管理委託業務（東京都）を開始
- 8月 高田松原 国営追悼・祈念施設の管理支援業務を開始（R3運営維持管理業務に移行）㉛

2020年（令和2年）

- 4月 民族共生象徴空間の施設管理運営業務を開始㉜
- 吉野ヶ里公園駅コミュニティホールの指定管理業務を開始
- 7月 「**コキアライトアップ**」が「日本夜景遺産（ライトアップ夜景遺産）」に選定（常陸）㉝
- 12月 海の森公園浮桟橋維持管理業務（東京都）を開始

2021年（令和3年）

- 3月 新型コロナウイルス感染症まん延に伴う臨時閉園や施設の利用制限により、**物産販売等事業の収入額が昨対約55%と大きく減収し、R2年度は大幅な赤字決算となる**
- 4月 石巻の指定管理業務（宮城県）を開始㉞
- 石巻 国営追悼・祈念施設の運営維持管理業務を開始

2022年（令和4年）

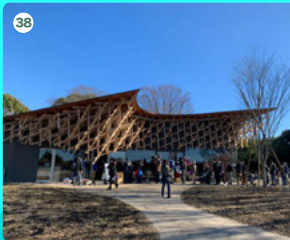
- 3月 国営公園初のPark-PFI施設が開業（海の中道）㉟
- 4月 県立高田松原の指定管理業務（岩手県）を開始
- 12月 建築家 隈研吾氏によるデザイン監修で当財団が建設した「**オカカフェ**」の営業開始（昭和）㊱

2023年（令和5年）

- 4月 青葉山の指定管理業務（仙台市）を開始㊲
- 花畑の指定管理業務（足立区）を開始㊳

2024年（令和6年）

- 2月 本部総合管理部にデジタル化推進室を設置
- 4月 パークアッププラン第3期中期計画の策定
- 5月 財団設立50周年を迎える㊴



受託公園等一覧

国営公園等

都市公園等

- 2024年10月現在、管理中の公園等
- 管理を終了した公園等

番号	名称	所在地	管理期間※1
①	国営武蔵丘陵森林公園	埼玉県	S49.7.22～H24.3.31、H27.4.1～
②	国営飛鳥・平城宮跡歴史公園	奈良県	S49.7.22～(飛鳥) / H30.3.24～(平城)
③	淀川河川公園	大阪府、京都府	H25.4.1～※2
④	国営海の中道海浜公園	福岡県	S56.10.20～
⑤	国営海野すずらん丘陵公園	北海道	S58.7.30～
⑥	国営昭和記念公園	東京都	S58.10.26～H24.3.31、H27.4.1～
⑦	国営木曽三川公園	愛知県、岐阜県、三重県	S62.10.31～
⑧	国営みちのく杜の湖畔公園	宮城県	H1.8.4～
⑨	国営常陸海浜公園	茨城県	H3.10.5～H22.5.31、H25.4.1～
⑩	国営備北丘陵公園	広島県	H7.4.14～H25.3.31
⑪	国営讃岐まんのう公園	香川県	H10.4.18～
⑫	国営越後丘陵公園	新潟県	H10.7.30～
⑬	国営吉野ヶ里歴史公園	佐賀県	H13.4.21～
⑭	国営明石海峡公園	兵庫県	H14.3.21～H22.5.31
⑮	国営アルプスあづみの公園	長野県	H16.7.24～H22.5.31、H25.4.1～
⑯	高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設	岩手県陸前高田市	R1.8.6～
⑰	民族共生象徵空間	北海道白老郡白老町	R2.4.1～
⑱	石巻南浜津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設	宮城県石巻市	R3.4.1～

※1 国営公園の管理期間開始日(初回)は開園日
 ※2 淀川河川公園は管理期間開始日

番号	名称	所在地	管理期間
⑲	福岡市雁の巣レクリエーションセンター	福岡県福岡市	S54.4.1～(H18 指定管理業務に移行)
⑳	福岡市海の中道青少年海の家	福岡県福岡市	H1.7.20～H27.3.31
㉑	札幌市青少年山の家	北海道札幌市	H1.9.1～H21.3.31 (H18 指定管理業務に移行)
㉒	ツインアーチ 138	愛知県一宮市	H7.4.1～(H18 指定管理業務に移行)
㉓	吉野ヶ里遺跡展示室	佐賀県吉野ヶ里町	H13.4.1～H26.3.31
㉔	佐賀県立吉野ヶ里歴史公園	佐賀県神埼市、吉野ヶ里町	H13.4.1～H26.3.31 (H18 指定管理業務に移行)
㉕	埼玉県営森林公園緑道	埼玉県比企郡滑川町	H18.4.1～H30.3.31
㉖	北海道立洞爺少年自然の家	北海道虻田郡洞爺湖町	H22.4.1～H26.3.31
㉗	浜名湖ガーデンパーク	静岡県浜松市	H22.4.1～
㉘	長野県鳥川溪谷緑地	長野県安曇野市	H22.4.1～
㉙	吉見総合運動公園	埼玉県比企郡吉見町	H23.4.1～R3.3.31
㉚	大野極楽寺公園・光明寺公園	愛知県一宮市	H23.4.1～
㉛	千葉県南房パライス	千葉県館山市	H24.4.1～H26.3.31
㉜	久喜菖蒲公園	埼玉県久喜市	H25.4.1～H30.3.31
㉝	さきたま緑道・花の里緑道	埼玉県鴻巣市、行田市	H25.4.1～H30.3.31
㉞	新宿区立新宿中央公園	東京都新宿区	H25.4.1～
㉟	北浜公園・大谷田南公園・ベルモント公園	東京都足立区	H25.4.1～
㊱	文京区立肥後細川庭園	東京都文京区	H28.1.16～R6.3.31
㊲	文京区立目白台運動公園	東京都文京区	H31.4.1～R6.3.31
㊳	海の森水上競技場	東京都江東区	R1.6.1～
㊴	吉野ヶ里公園駅コミュニティホール	佐賀県吉野ヶ里町	R2.4.1～
㊵	石巻南浜津波復興祈念公園	宮城県石巻市	R3.4.1～
㊶	国営海の中道海浜公園 光と風の広場(現在型レクリエーション施設)	福岡県福岡市	R3.7.27～
㊷	岩手県立高田松原津波復興祈念公園	岩手県陸前高田市	R4.4.1～
㊸	青葉山公園(追跡地区、竜ノ口地区)	宮城県仙台市	R5.4.1～
㊹	花畑公園・桜花亭	東京都足立区	R5.4.1～



「公園財団 50 年のあゆみ」
 (電子ブック)を、
 2025 年 2 月末に
 発行予定です。